

## 平成26年度第1回北九州市立図書館協議会 会議録

### 1 会議名

平成26年度第1回北九州市立図書館協議会

### 2 議 題

- (1) 平成25年度図書館事業結果報告
- (2) 図書館運営に関する評価について
- (3) その他（戸畑図書館について）  
（図書館整備状況について）

### 3 開催日時

平成26年 9月 3日（水）  
14時30分～16時20分

### 4 開催場所

北九州市立中央図書館 視聴覚センター 第2会議室

### 5 出席者氏名

- (1) 委員（会長他12名、欠席委員5名）

北九州市立大学図書館長	松尾 太加志
北九州市学校図書館協議会会長	瀬藤 早苗
北九州市私立幼稚園連盟副会長	中田 俊澄
北九州市PTA協議会母親代表	陣内 朋子
BUCH北九州 絵本とおはなしの会副代表	高井 眞紀子
北九州市社会教育委員	野田 弘子
北九州市AVEの会本部事務局長	堀川 英男
北九州児童文化連盟理事	高倉 照男
成人読書会「四季」会長	村田 恵子
北九州市医師会理事	有留 秀泰
北九州青年会議所常務理事	野上 裕貴
日本放送協会北九州放送局企画総務主管	大坪 和弘

(2) 事務局（中央図書館長他9名）

中央図書館館長	東 博幸
中央図書館庶務課長	嶋田 直紀
中央図書館奉仕課長	深町 康幸
中央図書館庶務課庶務係長	酒井 国広
中央図書館庶務課資料係長	有吉 浩一
中央図書館奉仕課奉仕係長	木下 隆志
中央図書館視聴覚センター館長	三栗谷 進
教育委員会生涯学習課長	梅下 勝己
教育委員会生涯学習課図書館建設担当係長	古郷 浩一

6 傍聴者

なし

7 会議次第

- (1) 中央図書館長挨拶
- (2) 新任委員紹介
- (3) 議事（報告、質疑応答）

8 会議経過（発言内容要旨）

新任委員の紹介について

(事務局)

今回の協議会では、新たに2名の委員の方が就任されたので、紹介させていただきます。

新委員は、九州国際大学図書館長 島浦一博委員、北九州青年会議所常務理事 野上裕貴委員の2名です。

(1) 平成25年度図書館事業結果報告

別冊資料「北九州市の図書館」（年報）に基づき、利用状況等について奉仕課長より説明。

資料「政令市図書館主要比較」等に基づき、蔵書数等の政令市比較等、政令市の図書館の運営状況を庶務課長より説明。

(委員)

若松図書館が人口のわりに22万人と利用者が多いが、理由は何か。

(事務局)

若松図書館は、ショッピングセンターの中に入っていますので、その駐車場が利用できるのがアクセスなどの条件面が良いことや3階にあり見晴らしが良いからではないかと考えています。

(委員)

それであれば、利用者を伸ばすには、今後の図書館の移転整備については、最近整備した八幡西図書館は別として、ショッピングモールの一角をつかうなど、駐車場も含めそのようにした方がより少ない費用で利用率が上がるのではないかと。

(事務局)

委員ご指摘のところも踏まえ、駐車場については検討していきたいと思っています。

新しい八幡西図書館は、黒崎ひびしんホールと一緒にそれぞれの駐車場を利用できるようにとのことで、できるだけ駐車場の台数を増やしています。

今後、古いところもあるので、整備する場合は、駐車場のことについては検討してまいりたいと思っています。

しかしながら、物理的な土地の取得費などの問題もあり極力努力してまいりたいと思う。

(事務局)

図書館のアクセスということでご意見いただきました。

後ほど説明しますが、八幡図書館の移設問題は、市民のアンケートもっており、そのような問題、要望に応じていきたい。

アクセス・駐車場の問題については、アンケートにも出てくるので、配慮に入れて対応していきたい。

(委員)

ブックスタートの件であるが、読み聞かせを自分もやっているが、子どもを抱えて図書館などの配布場所へ子どもを連れて行きにくいとの声もあります。

どこが行きやすいか。市民センターも含めて配布の活用は考えられないか。  
八幡西区はかなり広いので、西図書館やコムシティというより、ひとつでも家の近くの市民センターの活用を引き取り場所に検討していただければ、ありがたい。

(事務局)

ブックスタートの配布場所については、今年度もAIMビルの「子育てふれあい交流プラザ」など3ヶ所増やしました。

配布場所の増加は、配布率も伸び、配布率増加の有効な手段と考えています。

市民センターは、市の施設ではあるが地域の方に運営していただいているところもあり、調整や状況で難しいところもあります。

今後、できるだけ図書館としては配布場所を拡充させて、配布率が伸びるようにしたいと思うので検討してまいりたい。

(事務局)

ブックスタート事業は、本をただ渡すだけでなく、ブックスタートのその理念ややり方を親御さんに十分説明し、理解していただいて、お母さんから子どもさんに絵本の読み聞かせをしていただくことが主眼です。

市民センターでは、事業がどれだけうまく伝わるかなと思うところもあり、配布率向上だけなら、全戸への送付だけでも済む問題です。

そのような視点からも検討が必要であると考えています。

(委員)

こどもキッズという事業や子育てサポーターなど市民センターでやっている事業で、地域のお母さん方にブックスタートを説明させていただいています。

市民センターの女性職員や女性館長もかなり増えているので検討していただければ良いかなと思っています。

(委員)

市民センターによっては、それぞれの事情があると思うが、市民に開放しているので図書館と十分な連携ができれば受入可能だと思う。

しっかりやり方を説明したり、相談体制を整えるのは大変と思うが、子ども講座や乳幼児相談も定例的にやっているもので、今の話はある程度のりやすいかもしれない。

(委員)

相互貸借であるが、北九州市立大学図書館との相互利用は、入っていないのか。

(事務局)

北九州市立大学図書館のほか、男女共同参画センター・ムーブ、保健・医療・福祉情報センター、学術研究都市学術情報センターの三つの図書室では市民の図書館カードを持っている方が利用できるようになっています。

市立図書館の蔵書には入っていないが、機能分担がなされており、市立大学図書館とは相互貸借もできます。

(委員)

相互貸借は良い制度なので、充実してほしい。

(委員)

「アンネの日記」が被害を受ける事件が新聞紙上やマスコミで話題となったが、北九州市立図書館に被害は無かったのか。

(事務局)

「アンネの日記」汚破損の事件が起こって、各市立図書館に依頼して、実態をすぐに調べたが、幸いなことに市立図書館には被害は無かった。

(委員)

他の自治体の被害の状況はどうだったのか。

また、犯人は捕まったのか。

(事務局)

被害の状況は、ページの切り抜きや破り、盗難などがあつたと聞いています。

新聞では、容疑者は、半年ほどして逮捕されたと聞いています。

「アンネの日記」に関する書籍類は約600冊あるので、事件を聞いて以来、監視強化を指示したところです。

(委員)

保育園は、ブックスタートの看板やステッカーはあるのか。

ここで配布しているということがわかるものなのか。

(事務局)

保育園でストックしており、新設や破損等でその都度配布しています。

また、保育園には事前に予約して行くようにと説明しています。

子どもさんが生まれた翌月に通知のハガキを送っていますが、その中にも説明文を入れています。

(委員)

政令市の比較の中で、さいたま市の数値が良いが、特別な理由があるのか。

(事務局)

浦和市、大宮市など首都圏のもともと大きな市が合併してできた市なので、良いのではないかと考えるが、特別な努力をしているか詳しくはわからない。

政令市の会議が開催されているので、その中で聞いてみて、活用できる情報があれば報告させていただきます。

(会長)

今日は、年報等を使って基本的な内容を議論しました。

これには評価は盛り込まれていないので、今後の課題として、この内容に評価的なことを加味してはいかがか。

具体的に、何をやってどう変わったかを検討いただければもっと効果的なものとなると考えます。

(2) 図書館運営に関する評価について

資料「北九州市立図書館評価の実施」、資料「北九州市立図書館の評価」、資料「アンケート集計結果報告書」、資料「平成25年度図書館別来館者数」に基づき、「これからの図書館のあり方」の5つの視点ごとに内部評価を行った北九州市立図書館の評価を中心に庶務課長より説明。

(委員)

学校向け団体貸出の拡充で良くなったというように取り組み評価には書かれているのに内部評価はB、この評価のつけ方の考え方をもう少し説明していただかないと意見の出し方が難しい。

要するに、どれだけでB評価、どれだけでA評価を与えて良いのか。

何となくBが多いというのは、気持ち的にはわかりますが。

外部の中で意見を言うにあたっては、本当にそれが確認してやられているのかを判断して評価をしないといけないと思う。

尺度というのも難しいかもしれないが、物によっては色々尺度のつけ方も変わるので難しいかもしれないが、そのあたりをどういう風に意見を言えば良いのかが難しいというのが実感です。

(委員)

最初にプランが出たときに目標というのが項目としてあって、それに対してこういう観点でBにしましたという形で文章があるとわかりやすい。

(会長)

評価するのは非常に難しい。

一番大切なのは数値目標であって、それを達成しているかということで評価できるのが一番わかりやすい。

個別の件で言うと、「学校向け団体貸出の拡充」では、確か、昨年度は目標としては設定していたがやれなかった。

出来なかったということでDをつけた。

今年度から実施が出来た、この数字が順当なのかはわからないが、出来たということを見ると順調であったと考えます。

ただ、この数字がもっと大きければ場合によってはAの評価もあるかもしれないという、評価の感じだったのですが。

(委員)

数字だけあげるとA評価と思うのですが。

(事務局)

図書館評価については、その目標も時点、時点で変わっていくので尺度、客観的基準についてはなかなか難しいものがあると思っています。

図書館の評価については、ひとつはその事業をやったかどうか。

例えば、先ほどから話題になっている「学校向け団体貸出の拡充」では、量は増えたが、貸出期間を延長して下さいということが入っています。

この貸出期間の延長まではいっていないということで、Aは少し難しいと判断させていただきました。

したがって、ひとつの具体的尺度は無いが、この事業内容に記載されてい

る内容を100%やってしまったということであればA評価であろうし、それに近づきつつあるということであればBという判断をしています。

また、利用者が減っているという場合には遅れているということでCということもあり、「CDブックの収集・貸出」では、CDブックの貸出は図書館ではやっていないが、中央図書館や地区図書館で点字の図書目録を設置し、貸出申込の代行を行っており、点字図書館では1年間に約52,000冊くらい貸出をしています。

目標の数字があれば良いが、平成21年4月のこの取り組みの始まりから、現在までの取り組み状況を考え、A B C Dで評価させていただいている状況です。

(会長)

ここに書かれていることに関して、妥当な判断であるという前提で話を進めていかないと、話が先に進まないと思うので、評価は内部評価として妥当な評価がされているであろうという上で、それでは外部評価としてはもっとここを取り組んで欲しいとか、ここは良くやっているとか、ご意見をいただければというふうに思っています。

この評価も昨年からはまったので、まだここでのやり方、内部評価のやり方などをこれからも検討していかなければならないと思います。

例えば、取り組み状況の書き方などの問題に関しても、なぜこれがこのような評価なのかというのが我々委員の中では見えてこないのは確かです。

今、説明いただいて、ここはもう少し期間の貸出が充実でないからBなのだ、そのようなことが書いてあるといいのかなというのがあります。

例えば、たまたま目についたところでネットワークの「ネットワーク（連携）統括機能の充実」のところでシステム更新を行った、更新したのであれば良いではないかと思うが、ただ更新を行っただけで足りないところがあるのでC評価になっていると思うのだが、そのような内容が記載されていないので分からない。

更新のこの部分が遅れているのであれば、そこをやって下さいという外部評価が書けると思うので、今日は間に合わないと思うが、来年度以降はそのあたりを検討いただくということで、この資料で議論を進めさせていただく。

(委員)

中央館の図書館司書やボランティアの幼稚園などへの派遣を新しく始められたと思うが、幼稚園、保育所、小学校等に、11館の図書館司書と4館の読み聞かせボランティアを派遣したとのことですが、具体的にどこに派遣し



たか教えていただきたい。

中学校には全校に先生として図書館司書の先生が入っていて、対応する小学校には、中学の司書の先生が回って見て頂くという形で、ずっとではないが、一時期司書の先生がいるという形で回っていたと思う。

小学校には基本的に、そのまま司書の先生はいないのですか。

この2年くらいの時期をみてみると図書室はとても充実して、子ども達も利用しようとなっていますので、この図書館司書の派遣を続けてやっていただければ中学校の方にも展開できればと思います。

(事務局)

派遣先の方を、各図書館に照会し、その図書館で派遣した回数、派遣した司書数、参加者という形で集計しています。

小学校、中学校、保育所とか一括して集計しており、実質派遣先がどの程度かはまだ把握していない状況です。

そのやり方の集計で、図書館司書を派遣したのが11館57件、読み聞かせボランティアを派遣したのが4館61件になっています。

読み聞かせや図書館司書の派遣については、先ほどお話があったように、中学には司書教諭を配置し、小学校にはそのレベルにあわせてわかりやすくということもあり、希望があればできるだけその希望に沿って日程調整の上、派遣に応じているのが実情です。

(委員)

「大学図書館等との連携」ですが、北九州市立大学と九州国際大学については連携されているとのことであったが、北九州の他大学についてはいかがか。

相互利用と書いているが、市民に対するサービスという観点では、具体的にどのようなことができるのか教えていただきたい。

(事務局)

北九州市立大学、九州国際大学との相互利用の内容としては、市立図書館の図書館カード等を利用して、大学へ行って図書カードを作成できます。

そして、自分でその大学の図書を借りることができます。

それにあわせて、市立中央図書館で北九州市立大学に必要な本があることがわかり、その本を利用したいという方がいれば、中央図書館から北九州市立大学にお願いして本を取り寄せ、その上で市民の方にお貸しするという形で相互貸借が出来ます。

また、市内の他大学に関しましても、市民の方が利用できる形で図書館の本を貸し出しているところもありますし、逆に閲覧だけできるというように、それぞれの大学で色々な取り組みが進められています。

その中で、北九州市立大学と九州国際大学との連携という形で取り組んでいるのが、「大学図書館等との連携」であり、それについて記載しています。

(会長)

評価に関する意見をいただければ、もっとありがたいが。

(委員)

事前にFAXでも回答したのですが、図書館はこれから先を見据えた場合、減っていく方向だと思う。

その中で、ネットワークの構築の強化を進めることが重要と思う。

誰もが使いやすい、貸出がやりやすい、利用しやすい環境を、どういう風にやっていけばもっと利用しやすくなるかとか、そのあたりが重要なことではないかと思うが。

(会長)

内部評価としてもそのあたりは、重々理解して進んでいると思う。

先ほどのご意見の中にもアクセスの問題という話があった。

自分たちの近くに大学等があればそこに行けば良いという事になり、色々な場所で環境を整備していただければ、それは良いのかな、ということになる。

もうひとつの学校との連携についても、団体貸出が広がっているという点では順調であるということですが、先ほどご意見にもあったように、もう少し先のニーズに対応できる形で拡充していただければ良いと思います。

学校というのは、学生さんが利用する機会を増やしていくと、長いスパンで見たときに、図書館利用あるいは本を読むという活動につながると思うので、そののところを進めていただければと思う。

(委員)

先ほどデータがありましたが、60歳からの方の利用がかなり多いようで、おそらく時間が多分にある定年退職をされた方々が、今まで読めなかった本を図書館で読みたいという気持ちは何となくわかる。

現在は、高齢社会なのでそういった方が利用しやすい図書館の環境づくりが重要ではないかと思う。

(委員)

現在、ひまわり文庫の運用は適切になされているようなのでその点では問題ないと思う。

今回のアンケートの取り方について、アンケートの対象者は、図書館を利用した人を対象としたと思うが、市民全体では利用していない人の割合も多いと思うが、その人たちの意見も大事だと思う。

各図書館がたくさん行事・講座等の事業を行っているが、市民全体の理想的な図書館のあり方がはっきりしていないので何とも言えないが、図書館をどういうふう運営した方が良いかという点、例えば世の中も変わっていますので、昔は本を借りていたが、今は自分で購入されている方もいるでしょうし、購入しないとしてもインターネットから新しい情報が得られたりする時代ですので、本当の図書館のあり方はどういったものが一番良いのかというのを知るためにも、図書館利用者の意見だけでなく、利用者以外の意見も広く聞くことが大事ではないかと思う。

また、図書館にある雑誌については、個人的な意見であるが、雑誌は図書館で情報提供しなくても良いのではないかと考えている。

しかしながら、雑誌を置かなくなると、図書館の利用者が少なくなると思うし、図書館の運営面では、もっと雑誌を増やし、それこそ漫画の本を置いた方が、たくさんの利用者が訪れるようになると思う。

それが本当に世の中のためになっているのか、読みたい雑誌、週刊誌などがあれば、買ってもらって出版業界を潤さないと、将来、良い本が出てこない時代になってくるとも思うが。

今、行っていることも重要だが、その他のことにも目を向けてもらえればと思う。

非常に難しいことと思うが、これからの図書館運営の中で考慮してもらえればと思う。

(副会長)

今の意見は、貴重な意見とは思いますが、今回評価する項目は決まっております、その項目について、図書館側が内部評価を行い、それに対して私たちが外部委員として意見を述べる場だと思っています。

色々個人的な意見はあるとは思いますが、今回はこの59の項目について意見を述べる場で良いのではないかと考えています。

(委員)

この場で議論をしているが、何を目的にやっているのか、目的意識が希薄な感じがする。

図書館でいろいろな事業を行っていて大変だとは思いますが、市民にもう少し本を読んでもらうにはどうしたら良いかということをも目的にしないといけないと思う。

その目的を外れないように方向付けを修正していくことも、この図書館協議会のひとつの役割だと思っている。

今回、59の項目の評価には直接関係ないかもしれないが、自分の意見として述べさせてもらっています。

(会長)

先ほど言ったように、今回は59の項目について評価していきますが、次の時にそのような意見があれば、評価すべき項目としてきちんと反映していただくとのことで良いか。

今の段階では、既存の項目で評価を進めさせていただきたいと思う。

では、次の評価に移りたいと思う。

市民の学びに役立つ図書館という項目ですが、B評価に進んだものも多く、昨年度と比べるとかなり順調に進んでいると思っています。

この中で、C評価の部分、「調べ方マニュアルの作成」についてはさらに評価が上がるように対策を研究されたいと思う。

「IT機能の充実、活用」がCであるが、予算的な問題や技術的な問題など色々な難しさはあると思うが、今後さらに評価が上がるよう進めていただければと思う。

次に「次世代の育成を支援する図書館」についてであるが、全体的な評価がB評価で、「ヤングアダルト図書館サポーターの募集」について、何か説明はありますか。

(事務局)

「ヤングアダルト図書館サポーターの募集」は、先ほども説明したが、中高生を対象とした図書館サポーターの募集ということになります。

そのため、実施時期の問題を抱えており、例えば、子ども司書養成講座を小中学生対象に集中的に実施できる夏休み期間を利用して行っているが、中高生の夏休みの期間は、前半は部活動をしている子は試合等が集中してなかなかまとまった期間がとれないという事情があります。

やる以上は、その実施方法について効果的な方法を思案しているところで

あり、そういう意味では、来年度はヤングアダルト図書館サポーターについては、高校生を対象に協力できる高校を探し、実験的に来年の夏に実施できるよう検討しているところでもあります。

実際、子ども司書養成講座に来た子に感想を聞いてみると、中身がよくわかって、図書館がますます好きになったという意見もたくさんありましたので、そのような効果を狙っていきたいと思っています。

(副会長)

的外れかもしれないが、職場体験を行われているようですが、子ども司書養成講座で実際に習ったことが子ども達も、とても楽しく印象に残っているとのことですから、職場体験に中高生を募集して、ヤングアダルト図書館サポーターの方もできないかなと思ったところです。

(事務局)

実際、中学生の子どもたちが図書館の職場体験に来ています。

中央図書館だけでなく、他の図書館でも受入を行っているが、高校生についてはなかなかそのような取り組みがない。

中学生は一部やっているが、高校生についてはなかなかアプローチができていないという状況から評価しています。

(委員)

数が少ない中で、少し深い内容で行われても良いのではないかと思います。

高校生になると将来の自分の希望などが見えてきて、図書館司書になりたいとか出てくると思うので、すごく興味のある子たちと一緒に、深い内容でやるのもあるのではないかと思うが。

(事務局)

ご指摘、ありがとうございます。

次は、そういう内容についても検討してみたいと思います。

(会長)

子どもというのは、21年に計画した時と、実際にやってみるとうまくいかない所も出てくると思うが、場合によっては今みたいに形を変えて、小規模でやっていただくとか、そういうことも検討していただきたいと思う。

(委員)

今までのところA評価がないが、例えば「次世代の育成を支援する図書館」では、「読み聞かせ会等の実施」は、図書館職員だけでなく各市民センター等で地域のボランティアの人たちが色んな所で読み聞かせを実施しています。

図書館の方が指導しているところもありますが、実際、地域でボランティアの方がどんどんやっているの、そういう点ではAでも良いのではないかと思う。

Bなのは、やはり目標が高いのでしょうか。

(事務局)

もともと順調で実績は伸びてきています。

Aが「大変順調である」、Bが「順調である」であります。

大変順調であるということになれば、最終目標に到達したということになります。

どこまでが最終目標かが決めにくいので、私どもも自信を持って、内部評価でA評価の大変順調であるとの評価を付けづらいところがあります。

読み聞かせのボランティアの方々にはたくさん参加していただいているので、図書館も大変助かっています。

もっと活動を活発にさせていただきたいと思っているので、今回、Bという評価にさせていただきました。

(委員)

学校でもPTAの方がボランティアで読み聞かせを行っています。

学校でも市民センター、図書館でも色んな所でやっていますので、A評価でも良いのではないかという気持ちがするが。

(委員)

市民の方が参加されているものについては、図書館職員が行うものと評価がひとつ違って良いのではないかと思う。

ボランティアの方がやっているの、よけい外部評価で評価を上げて良いのではないか。

(会長)

今回の内部評価は評価として変更はできないが、あくまで外部評価の意見を書くことになります。

先ほどの委員の方のようにAでも良いのではないかとの意見もあったので、

この項目は内部評価でBであるが、外部評価ではもっとやれていると思うのでB以上に評価できるとのことであれば、その旨を標記ができます。

それから、総合評価のところでも感じていますが、実態を知ると、A評価でも良いのではないかというものがかなりあるのではないかと思う。

全体の評価のところ、意見として内部評価以上にやれているということを書いた方が良く思う。

本当に、控えめで慎重な評価をされているのが良く分かるが、北九州市の図書館はうまく運営しているんだよというところをもう少し外に見せた方が良くという気がします。

(委員)

「読み聞かせ会等の実施」も良くやられているので、このあたりも評価を上げて良いと思うが。

(会長)

それでは、その次の「誰もが使いやすく、情報や人が交流する図書館」ですが、ここは少し厳しい評価のようです。

IT関係の部分でやられています、「メールマガジンの配信の検討」、障害者へのサービスとしての「CDブックの収集・貸出」の、このあたりが十分ではないということでしょうか。

(事務局)

CDブックの収集については、現在、点字図書館に5万2千人くらいの利用者がいるということもあり、市立図書館としては、点字図書館と役割分担をきちんと行ったうえで取り組んでいくべきと考えています。

ただ、この中に一般向けサービスとあるが、今のところ、一般向けのCDブック収集は仕組みとして、なかなか難しいというのが現状です。

今のところ市としては、点字図書館と役割分担していることを述べさせていただきます。

(会長)

最後に、「市民参画型図書館」についてはいかがか。

ここは全てB評価となっています。

ここは読書ボランティアなどで多くの市民の方に参画していただいていることから、これも実態としてAをつけても良いのかなあという印象があります。

そのあたりのところを外部評価としては評価していますと書いておきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

以上、ありがとうございます。

あと事務局の方から、何かお話がありましたらお願いします。

(事務局)

今回、事前に文章でいただいた意見を含め、たくさんの意見を委員の皆様からいただいておりますので、外部評価については、会長、副会長にご確認いただき、図書館評価の外部委員の評価として整理させていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

(3) その他

・戸畑図書館について

資料4「戸畑図書館について」に基づき、開館後の利用状況等について庶務課長より説明。

・図書館整備状況について

資料5「図書館整備状況について」に基づき、八幡図書館、小倉南図書館の整備状況等について生涯学習課長より説明。

以上